

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ユニット会議において、理念に対する思いや方針を伝え、職員らが意識して取り組めるように努めている。職員が行う年間目標設定においても理念に沿って目標が設定できるよう指導している。	開所当時から理念をフロア・事務所・玄関等に掲示している。人事考課の目標設定チェックシートに理念の項目があり、職員からも理念について質問がある。「毎日楽しく暮らせるために職員がどう行動するか考えよう」と声かけし、個々に振り返り実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として日常的な交流を持ち、回覧板にて広報を紹介したり、学校行事や地域の祭礼、作品展への出展等、地域住民との交流を図っている。また、グループホームの行事や夏祭りへも参加していただいている。	年2回「おのっと」という地区の親睦会に家族・利用者・職員が参加し交流を図っている。道路で車のトラブルがあった際に、近所の方が駆け付けてくれて手伝ってくれたり、散歩中に声をかけていただく等、顔馴染みとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム行事や地域の集会への参加の際、介護に関する素朴な疑問や相談等をお受けする時間を設けている。地域の祭礼「オノト」の場では、認知症の特徴について地域住民と意見交換の場を持った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において施設全体の状況報告やユニット毎の状況報告を行い、ケア方法についても相談している。参加者の皆様からいただいたご意見をサービス向上に活かしている。	定期的を開催しており、ホームの状況報告や相談等行なっている。ピアホールの参加呼びかけの協力・ボランティアの紹介・消防団についての情報もらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年行われた市役所の実地指導以降、特に連絡を密に取り合いながらサービス向上へ繋がるための意見交換を盛んに行っている。	運営推進会議の会議録や広報誌を定期的を持っていき、議題についての質問や何かあれば相談している。高齢福祉課より、空き状況の問い合わせや困難事例の相談・新規開設事業所の職員の研修受け入れ等連絡あり、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのマニュアルが整備されており、また、内部研修を通じて職員は身体拘束が行われないよう、日々お互いに意識し合いながらケアにあたっている。	年1回の研修や事故の検討と同時に、身体拘束について学ぶ機会を設けている。言葉の抑制・無意識にしている拘束や好きな時に動けないのも拘束だということを話し、拘束と危険防止はイコールではないことを全職員が理解し、注意を払っている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する研修会を開き全職員で学ぶ機会を設けた。ホーム内でも虐待のないよう特に注意を払っている。	身体拘束・虐待防止の研修を同時に行ない、ヒヤリ・事故の検討の際にも指導し職員は理解している。リスクを回避するために保守的な行動となることを虐待と捉えない職員もあり、日々の業務の中で注意し、防止している。ひとりの職員がずっと同じ利用者に対応しないよう職員同士連携を図り、ストレス軽減している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、実際に申請を起されたご家族の事例を通して職員全員で学ぶ機会を持てた。日常生活自立支援事業に関しても外部研修に参加し、伝達研修を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族への説明が一方的とならないよう特に注意しながら説明を行い、理解・納得を得た上で契約を締結している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族が意見・不満・苦情を表せるよう普段からできるだけ話し合いの時間を多く持ち、話しかけやすい雰囲気作りを励んでいる。また、運営推進会議でいただいたご意見は職員会議・ユニット会議にて運営に反映させている。	行事についてのアンケートを実施したり、面会時や電話等で積極的に意見を聞くようにしている。意見・要望があった際には、会議や申し送り等で話し合い全職員で情報共有している。駐車場の電線について意見があり、早急に対処した例がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や法人会議及び懇親会等設け、職員の意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	職員意見は日頃からたくさん上がり、まず実践してみ、それから全職員で検討し取り組んでいる。業務をスムーズにし、寄り添うケアを重視するため勤務時間の変更や買い物の仕方を改善する等、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて適宜支援し昨年度からは資格手当の幅を大きく広げた。また、職員各々が立てた年間目標の達成度が給与にも反映できるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアに合わせ研修を4段階に設定し、各段階とも数日間の研修を順次受けている。また、年間を通した目標を設定し、日々働く中で目標が達成できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内と市外の2つのグループホームと常々交流の機会を持ち、運営推進会議や相互訪問等行っている。新発田市他グループホーム事業所が一同に会する交流会へ参加し、意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際に、ご利用者とご家族から生活状況や様態、これまでの生活暦を聞き取り、利用に係わる希望を把握できるよう努めている。また、ご利用前にホームで過ごしていただく時間も設けて不安軽減を図っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学していただいた際や事前面接の場、または電話でもご家族とよく話し合うよう努め、ご家族の要望の実現と不安の解消に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する場合や相談をしている中で必要としているサービスが異なる場合でも、他事業所の紹介や説明等の支援を適切に行い、ご利用者と家族の負担軽減に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりの力に合わせて、様々な場面で活躍していただけるよう配慮している。人生の大先輩であるという尊敬の念を持ち、共に支えあう関係の構築に努めている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在があってこそグループホームでの生活も穏やかなものとなると考えている。何事にもご家族と相談しながら支援し、関係の継続と共に支えあう体制となるよう努めている。ご契約時には特にこの点に気を付けて説明している。	家族には定期的に状況説明等行ない、ケアや対応の仕方について話し合い、一緒に考えている。洋服の購入でも色・形・柄等、確認し少しでも関わりが持てるよう支援している。家族と毎日通話できるよう携帯電話を持っている利用者もあり、関係が途切れないように努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に関しては、一部の方がお電話やお手紙で連絡を取り続けている。場所に関しては、買い物や外出時に出来るだけ馴染みの場所に行けるよう支援に努めている。また、定期的に個人的に行きたい場所をお伺いし計画を立て実行している。	親戚・兄弟が遊びに来てくれたり、家族の協力で馴染みの美容院や医療機関に出かけている。誕生日に、やりたいことを聞いたところ友人と出かけたことと要望があり、実現させた例があり、関係継続の支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、ご利用者同士の意見の食い違い等で、一時的な孤立は見られるものの、ご利用者同士の関係を把握しており、職員が間を取り持つ事で、お互いに支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご家族と連絡を取り合い、病院等にお邪魔した。また、その後の施設入所に至る過程でも連絡を密に相談支援を行い、スムーズな生活移行のため尽力した。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者がさりげなく本音を伝えられるような雰囲気作りに留意し、ご利用者がどう暮らしたいのかをご利用者の目線で考えるように努め、ご本人への聞き取りのみならず家族にも相談しながら、一つずつ意向に沿えるように進めている。	職員が利用者の話をじっくり聞ける時は入浴や買い物で1対1で接するときであり、その時に聞き出したことをケース記録にまとめたり、申し送りで話し合い全員が把握している。食べたいもの等はできるだけ取り入れている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツール(センター方式)にて、職員皆で生活歴、暮らし方を把握し、情報共有に努めている。ご家族の訪問時や行事に参加して下さる際にプライバシーに配慮しながらより良い情報が得られるよう努めている。	家族や以前のケアマネから聞いたことをセンター方式にまとめているが、それだけでなく毎日接する中で昔のことを話してくれることがある。入居時よりは信頼関係が深まり、随時に昔の話が出てくることが多い。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活リズムを大切に、心身の状態に合わせて活躍して頂けるよう、現状の総合的把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを複数の職員で行い、課題の把握とケアの向上に活かしていけるよう努めている。ご利用者には日々の関わりの中でご本人の意向を把握し介護計画に反映できるようにしている。	職員は利用者のことを良く見ていて、少しの変化も見逃さずケアプランに反映させている。大きな変化がある時は、ユニット会議で話し合いプランを変えるよりは目標を変えている。モニタリングは3か月ごとに行ない見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録、受診記録、家族記録、健康記録等を備え、各種記録を一冊にまとめており、変化に気付きやすくしている。また、夜間ケア、日中ケア、介護計画に基づいたケアについて色別に記録しており、介護計画に反映できるよう工夫している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診支援は、基本的に全て職員が対応しており、ご家族の要望があれば家族の付き添いもお願いしている。日常生活の中で買い物支援、受診支援が可能となるようシフトを組むようにしており、その都度柔軟な対応が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に相談し、地域の老人クラブから踊りのボランティアに来ていただいたり、コミュニティーセンターへご利用者の作成した作品を出展する機会を設けたり、図書館を利用し好みの本を読んでいただいたりご利用者の意向に沿って利用させていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医をかかりつけ医にする場合でも、ご利用者と家族に説明の上同意いただいて受診支援を行っている。希望するかかりつけ医への受診もっており、個々の要望に応じている。	以前からのかかりつけ医と嘱託医との受診比率は5対4の割合である。受診介助は基本的には職員が行っているが、希望があれば家族が同行することもある。嘱託医が週1回往診してくれ、県立病院とのパイプ役でもあり、適切な医療を受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の事業所に勤める看護職員と連携が取れており、日常的に健康管理や医療活用の支援ができています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、ご家族も交え情報交換や連絡、相談に努め、早期の退院実現に努めている。また、職員と共に仲の良いご利用者をお連れし、定期的に訪問することにより安心して過ごせるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際にも、終末期のあり方についてご本人・ご家族から意見を伺うようにしている。その上で、この施設で可能なことを説明させていただき、方針を共有できるよう努めている。また、嘱託医とも連携し、ご本人・ご家族が安心して生活できるよう支援している。	嘱託医とは連携できており、24時間いつでも連絡できる。医師から家族への説明も十分行なわれ終末期や看取りの介護も行なっている。また法人内隣接の看護師から摘便等必要な処置をしてもらったり、異常の発見や予防の指導を受けている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職員と共に応急手当に関する内部研修を行っている。消防隊員の立会いの下、救急救命講習を行い応急手当、初期対応の訓練を重ねている。	年1回消防署員の指導で救命講習を受けており、最近意識消失の利用者に心臓マッサージを行ない救急搬送した例があるが全職員が行えるだけでなく、職員は定期的に頻回な訓練を希望している。	医療連携体制があり、隣接ショートステイの看護師の協力もあることから利用者一人ひとりの疾病や特徴を盛り込んだ個人急変時マニュアルや応急セットの準備等とそれを用いた訓練が望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの下に避難訓練を行い、消火器の使い方や避難方法の訓練を行っている。また、計画停電に合わせた対策訓練も真夏に行い、御利用者職員が共に体験する機会を設けた。	年1回消防署員の協力で避難訓練を行なっている。職員の発案で地震想定訓練を行ない、認知症の人の動きがイメージでき誰を先に避難させたらいかが解ったが職員は頻回な訓練を希望している。地域との協力体制は提案で終わっている。	職員の連携のよさと意欲から、事業所独自の避難方法を確立し、頻回に訓練することと、地域と近隣企業との具体的な協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格や習慣に合わせた言葉かけを行いながら、親しみある関係作りの中でも誇りやプライバシーを尊重できるよう、常に指導している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、個人情報保護のためのマニュアルに沿って適切に対応している。	利用者を尊重し、プライバシーに配慮して言葉遣いに注意している。利用者が自宅に帰りたいと何度も繰り返していても、不安を取り除くような対応し、家族に電話できる時間帯を聞いて電話している。個人ファイルの名前はアルファベットにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安全に配慮しながらも、できるだけ制限なく自由に暮らせるように職員間で意志を統一し、希望の表出できる環境、個々の能力に合わせた支援に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはおおよそ決まっているものの、勤務時間や業務の見直しを行った結果、外出や買物、入浴等、よりご利用者の希望に沿える支援が可能となった。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、ご意見をお聞きしながら、できるだけその人らしい身だしなみができるよう支援している。買い物の際にもご利用者が納得した衣類や整容の備品が購入できるよう選んで頂いている。理美容に関しては、ご本人やご家族の要望に応じて、行きつけの理美容室へ行かれたり、訪問理容を使っていたりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の力を生かしながら、買い物、下ごしらえ、調理、片づけを職員と共に行っている。朝・昼食の献立は1ヶ月毎に作成して、バランスの取れた食事や季節の旬の食材を使用している。また、食事を目でも楽しんでいただけるよう、色彩豊かとなるよう心がけている。夕食の献立は、その日にご利用者が望む食事を提供している。	朝・昼の献立は給食委員がたて、夕食は遅番が利用者の食べたい物を聞き、一緒に買い物に行っている。利用者のできる力を活かして下ごしらえや味付けを上手にしている。夏場は自家製野菜を楽しみ、隣接栄養士に献立を見てもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々に記録、水分摂取量は大まかではあるが把握し、1日5回程水分補給を行っていただけるよう促し、その他はご自分のお好きな時にお茶などを飲んで頂いている。栄養のバランスについては、法人内の給食担当者やグループホーム事業所同士で研修を行い、栄養士の指導を反映させている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促しており、夜間は義歯洗浄を実施している。口腔ケアが自立されている方は定期的チェックを行い口腔内の状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態に応じて排泄チェック表を用意し、リズムを把握することによって、リハビリパンツ対応が尿取りパットで済むような、できるだけ気持ち良い状態で過ごしていただけるよう支援している。また、尿取りパットの交換などは、羞恥心に配慮してさりげなく行えるよう支援している。	利用者の排泄状態は全職員が把握しており、昼間はなるべく布パンツとパッドを使用してもらい、トイレでの排泄を支援している。異性職員が介助の時は羞恥心に配慮し、汚れた場合はバケツに入れてもらう等、できるだけ本人に行なってもらう。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味のご利用者には体操をプラン等に盛り込むなどしている。野菜を多く取り入れ、ご利用者の嗜好に配慮して代替食の提供等にも努めている。個々の排便リズムを把握し、状態変化に応じて援助するようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中の中入浴が主となっていたため、職員の勤務時間を変更し、午後・夕方と人員を厚く配置することによって、自由な時間での入浴が可能となった。お一人おひとりがよりくつろぎながら入浴を楽しめるよう支援していきたい。	入浴は利用者の希望する時間帯に入れるが、拒否するときは誘い方を変えたり、時間を置いたりして、2日に1回は入ってもらうようにしている。拒否されても何らかのきっかけで入ると長い時間入浴し楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の活動状況や体調に応じてご自身で休息されたり、休息していただけるよう声かけを行っている。できるだけ自由に活動と休息が取れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルにおいて受診記録を設け、処方された薬の名前や効能を記入し、また、効能書きも共に綴じ、薬の内容や容量を把握できるようにしている。服薬マニュアルの徹底を図り、適切に服用できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りやお掃除、歌や踊りなど、ご利用者の生活歴やできること、したいことに沿って役割をもって生き生きと生活できるよう支援している。また、毎日の買物をはじめ散歩や外食、ドライブの日を設けて、ご利用者の要望に応え、様々な場所へ出かけ気分転換となっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品の買い物や個々の希望物品の買い物など希望に応じて適宜外出している。ユニット単位での外食や個人の外食の機会を設けている。また、ご家族にも協力を仰ぎ、毎週のように外出されている方もおられる。	日常的な買い物やドライブ・散歩等外出する機会が多い。行事計画としてぶどう狩りや足湯・胎内パークホテルに食事に行ったりしている。個人の希望に応じ誕生日に職員と連れだっておいしい物を食べたり、買い物したりと楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は特にご本人にお金を払っていただけるよう支援している。ホーム内では、お一人おひとりの希望や力に応じて多額とならない程度のお金を居室で管理されている方もおられる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望に応じてご本人自ら電話ができるよう支援している。また、ご家族や大切な人宛ての年賀状を書きいただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のどかで閑静な土地環境と天窓から差し込む光に加え、木材をふんだんに使用した居住環境の中で、ご利用者たちとの会話や家事をお願いしながら居心地よく過ごしていただいている。共用スペースの装飾は、ご利用者と相談しながら季節に応じた飾りつけや花などを飾っている。	畳コーナーやフロアの所々にソファがあり利用者は思い思いに過ごしている。キッチンが広くゆったり作業ができ、食事その時の気分により場所を選んでいる。ユニット間はウッドデッキを通過して行き来でき解放感がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、畳コーナー、ソファのスペース、玄関ホール、テラスのベンチと様々な場所をご利用者同士が思い思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の居室に泊まるのが可能である。居室には本人の使い慣れたもの、好みのものを本人・家族と相談し取り入れている。日常の買い物でもご利用者と共に相談しながら購入している。	居室の入り口は全て別の作りで特徴が出ている。居室は自宅の環境に近付けるようにベッドや家具の配置に気配りし居心地良く過ごせるようにしている。仏壇や遺影があり、仏花を生けている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間には壁つたいに手すりを設置している。共有空間中央部には机を配置し、安全を確保できるよう工夫している。浴室には滑り止めマットを敷いている。また、ホーム全体はバリアフリー構造となっており、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			